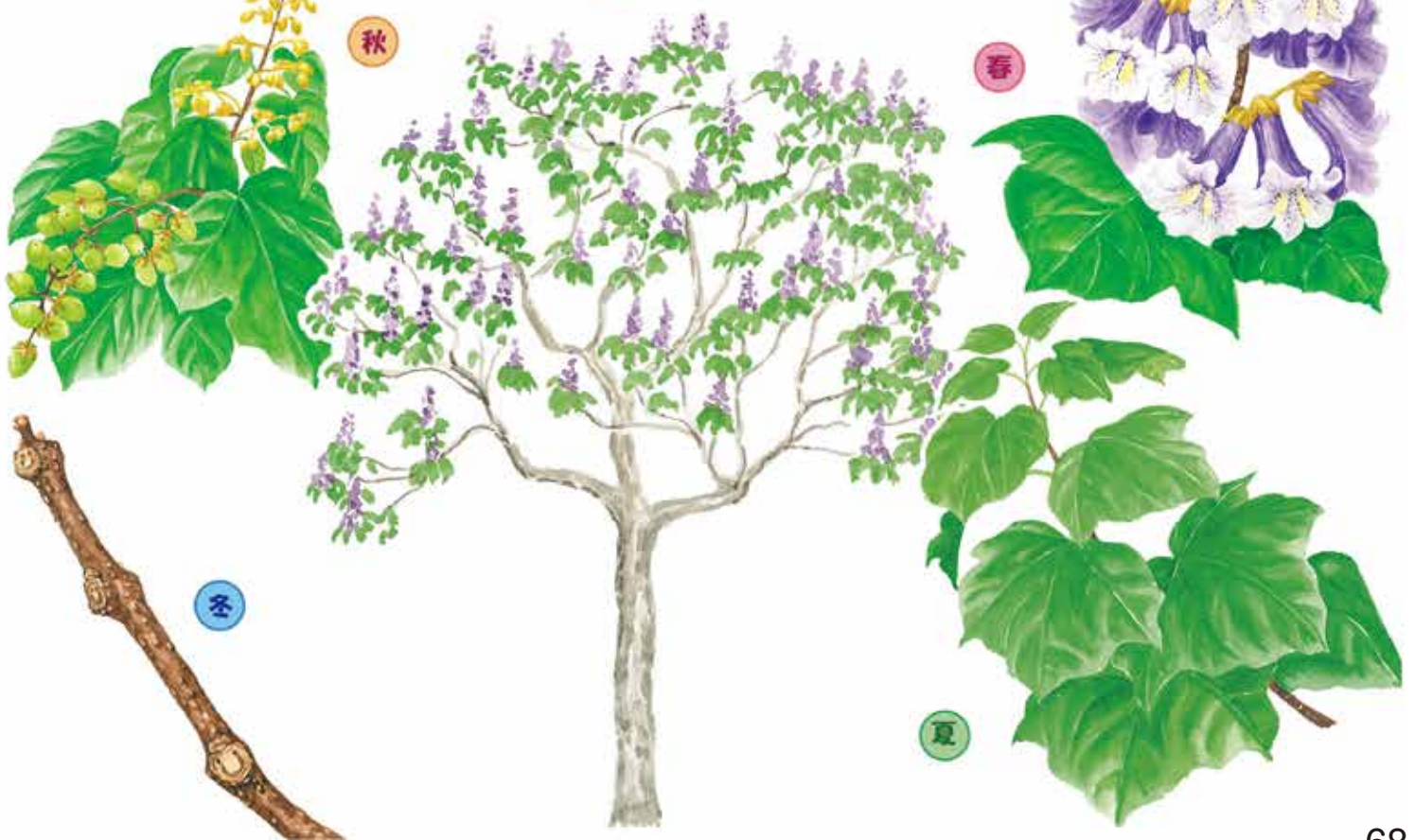


キリ

キリ科
キリ属
樹高
10～15m



ヒイラギ

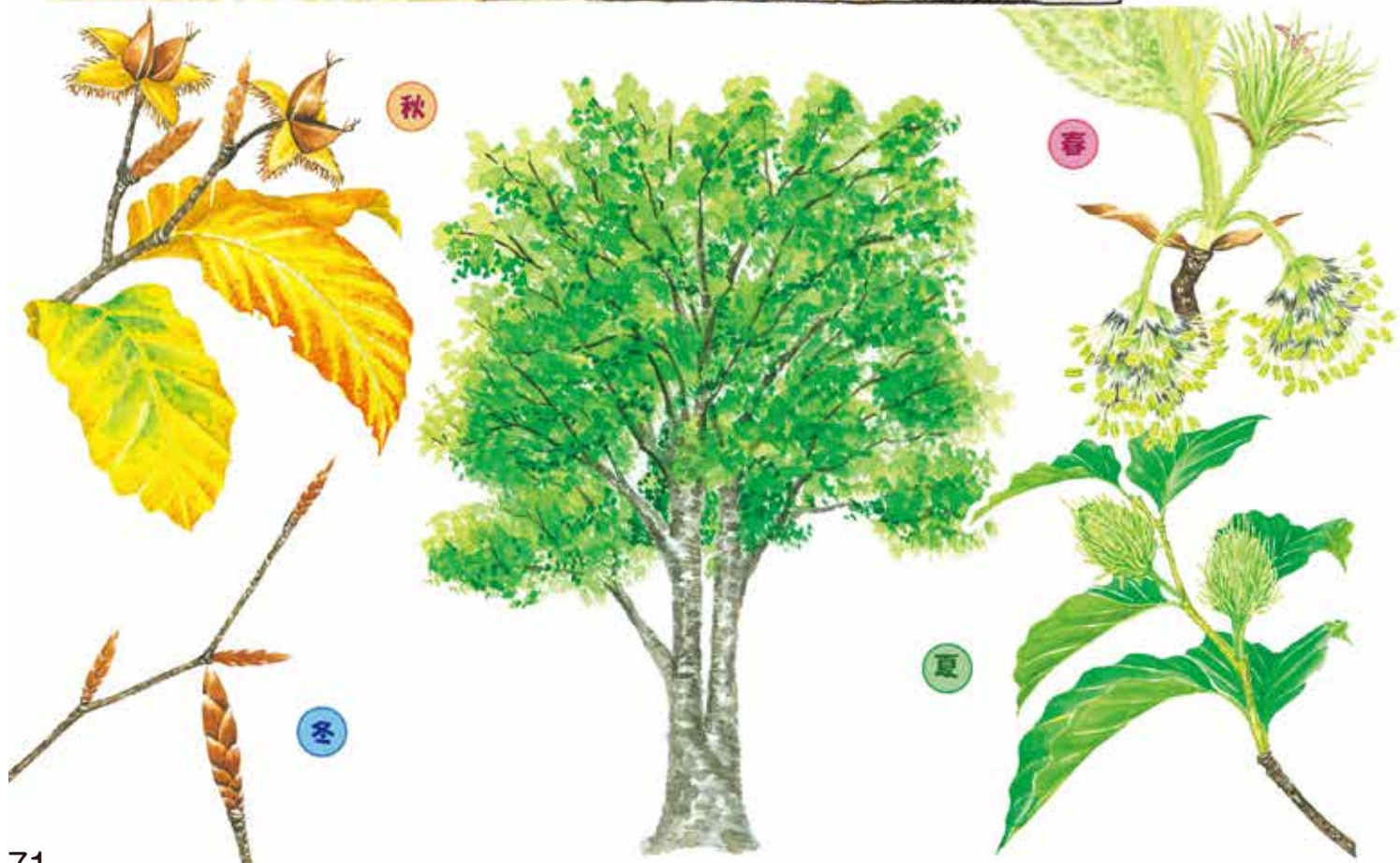
モクセイ科
モクセイ属
樹高
4～8m



ブナ



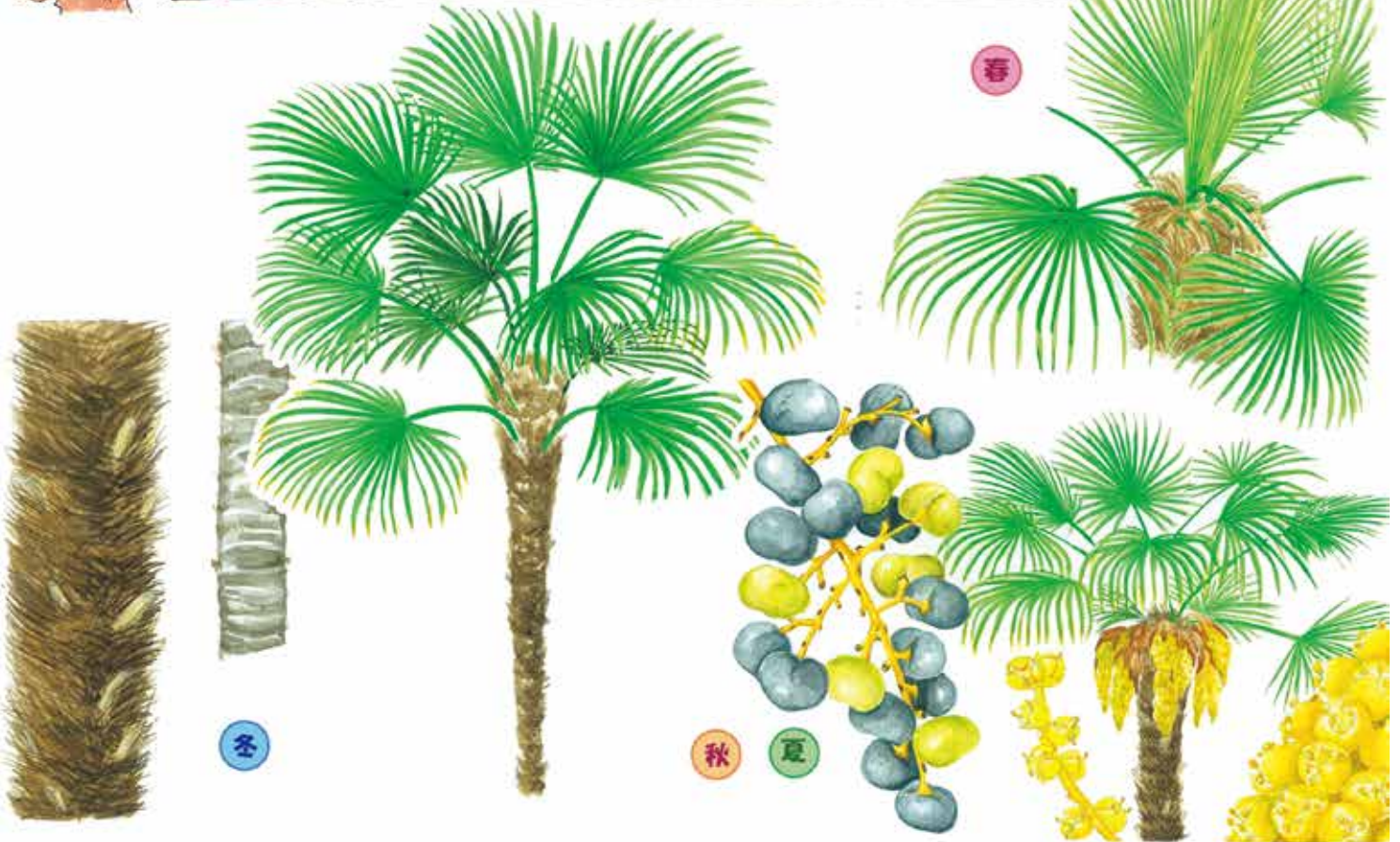
ブナ科
ブナ属
樹高
20 ~ 30m



シュロ

リン子の
絵日記
シュロ

ヤシ科
シュロ属
樹高
7~9m



フジ

マメ科
フジ属
つる植物



ツツジ

リン子の
絵日記

ツツジ

サクラの時期
終わってしまっ
ましたわね。

春の通学の
楽しみ
でしたのに。

こっちもいよいよ
上じゃなくて
前を見て！

ツツジが
満開だよ！

ヒラドツツミ

ツツジ科
ツツジ属
樹高
1~5m

しかも、すっごく美味いんだよねー。

色気より
食い気ね。

注

レンゲツツジは有毒
絶対にすわないで！！

こいし
色
葉は
しわわ

秋

夏

春

冬

<ヤマツツジ>

ソテツ

リン子の
絵日記

ソテツ

夏休み、奄美大島に
来ています。

巨大な
パイナップル
みたいな木!!

あの木は
ソテツ。

ソテツ類は恐竜の
時代からあって
「生きた化石」とも
いわれているよ。

地面を少しほって
みてごらん。
根がふしぎな形を
しているだろう。

これは根粒といっ
て、中には細菌の
なかまの藍藻が
すんでいるんだ。

ソテツ科
ソテツ属
樹高
2~4m

この藍藻は空気中の窒素をソテツに
養分としてあげている。
お礼にソテツは光合成でできた養分を藍藻に
あげている。これを共生という。

この共生のおかげで
ソテツはほかの植物が
育たないやせた土地でも
生きられるんだ。

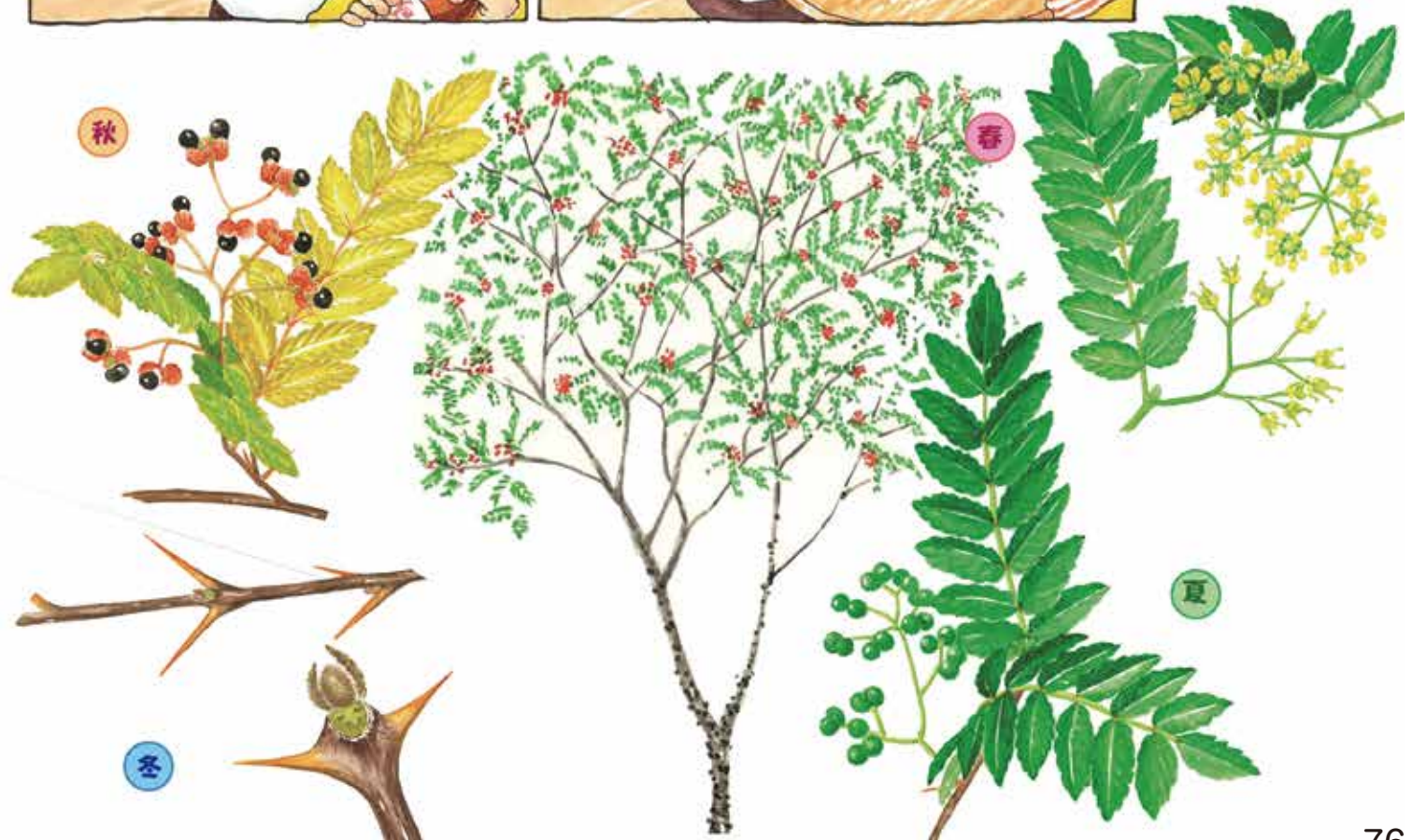
防風林として海岸に
植えられたりして
いるんだよ。

協力して生きる
って強くな
るんだね!



サンショウ

ミカン科
サンショウ属
樹高
1.5 ~ 3m



カキノキ

カキノキ科
カキノキ属
樹高
3~9m

おっ今年もカキノキが豊作だー

カキノキは本来一年おきに豊作になるけど、冬の間に剪定することで毎年たくさん実をつけるんだよ。

カキノキの実はこのままじゃしぶくて食べられないんだよね。

わかいカキノキの実には、水にとけてしぶさのもとになるタンニンがふくまれているからね。タンニンが口の中でとけなくすることが、しぶめきだよ。

水にとけたタンニン

水にとけなくなったタンニン

カキノキのしぶめき

しぶめきにはアルコールやドライアイスを使うのが一般的。

へたに35度の焼酎をしみこませる。

また、

アルコールの場合

きりふきで35度の焼酎をふきかける。

ドライアイスの場合

ドライアイス

カンホールははじめに空気をしっかりぬいてふくろをしぼる。20℃の室内で4日くらゐ。

布といっしょにビニールふくろへ入れ、20℃くらいの室内で4~14日。

あまくなったか切り口で確認。

黒いほん点が水にとけなくなったタンニン。これが出てればしぶめき完了。

本当は木の上で熟させてもあまくなるんだけどね。

そうすると鳥たちに先こされちゃうからねー。

温度とかで日数はかわるからチェックしながらね。

甘

スズメ

カキノキ

カキノキ



クワ (ヤマクワ)

クワ科
クワ属
樹高
3 ~ 10m

リン子の
絵日記
クワ

お母さんの
ストールきれいだ。

お父さんから
もらった絹の
ストールよ。

絹はどう
やって
できるか
知ってる
かい？

似合っね

絹はカイロでつくられるの
まゆからつるられるんだ。
そのカイロはクワの葉を食べてる。

大きさは
約3mm

約25日
後

5齢

約385mm

約23日

クワ
(ヤマクワ)

でもわたしは、
葉より実のほうが
あまくて
すきだな。

クワの葉だけ
食べて、きれいな
絹をつくるなんて、
カイロはすごいね。

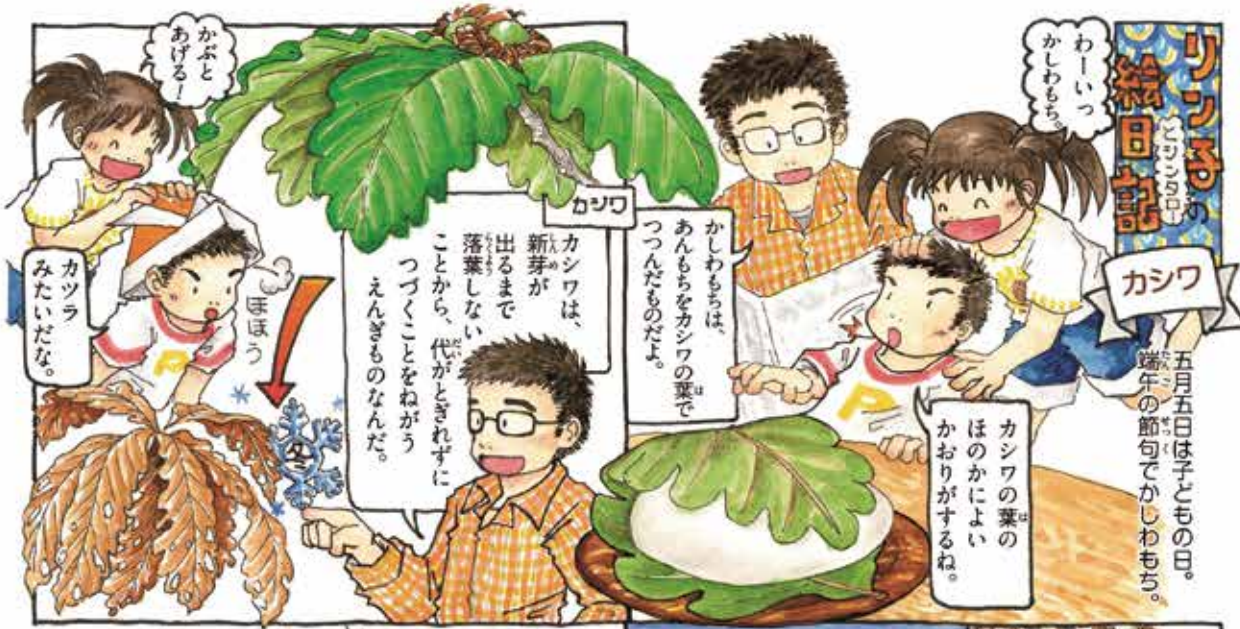
全国にクワ畑が
広がり、
地図記号も
できたよ。

クワの実はカリウム
やビタミンCが多い
から美はだ効果も
期待できるよ。

弥生時代からはじまった絹の生産は全国に広がり、
一九〇〇年代には、日本は生糸の世界一の輸出国に。
ピーク時の一九三〇年代では全農家の
四十%が養蚕を行っていたんだ。



カシワ



リン子の絵日記
五月五日は子どもの日。
端午の節句でかしわもち。

カシワ

カシワの葉のほのかによいにおいがするね。

かしわもちは、あんもちをカシワの葉でつつんだものだよ。

カシワは、新芽が出るまで落葉しないことから、代がとぎれずにつづくことをねがう。えんぎものなんだ。

カシワ
みただいな。

ブナ科
コナラ属
樹高
10～15m



また、カシワの樹皮はコルク質なのでかき、山火事などでも燃えにくいよ。

寒さに強いところから、北国の海岸林としても重宝されているよ。

潮風にも強いんだ。

できればリン子はもう少しおしとやかに。



春

秋

冬

夏

リリ子のお絵日記 ウルシ

うわあまっ
きれいなお椀

これは
職人が
作った
漆の
お椀だよ

漆？
木？
漆？



漆はウルシの木の
樹液を集めて作る
塗料だよ。

1万2,600年前の
ウルシ木片(世界最古)

5,500年前の
ポシエツト

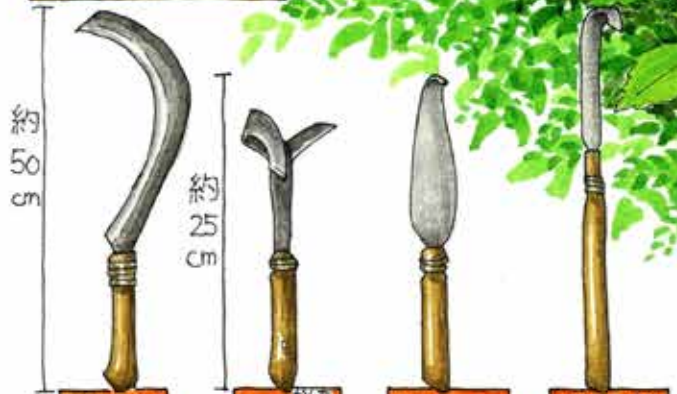
漆を塗る前から
原形がしかり
残っていたんだ



日本人と漆の付き合いは古く、
縄文時代から漆を育て、
利用してきたんだ。

矢じりと木の
接着剤にも利用

漆掻きの道具



- 漆鎌** 約50cm
厚い樹皮を削り、傷をつややすくする。
- 漆鉤** 約25cm
傷をつける。
- 掻ペラ** しみ出た液を集める
- エヅリ**

漆はウルシの木を
傷つけて分泌される
樹液を集めて作るよ

漆掻き

タカッポ(かきたる)

ホウキやシナノキの樹皮で
作る。漆を集めるタレ

ウルシ (ウリ科ウリ属)

苗畑で育てた
苗木を山に
植えかえて
約15年かけて
一升ビン位の太さ
まで成長させます。

ウルシは、人間が下草
などを刈って、育てる必要がある。
種子を集めて発芽させ、
苗木も作っている。



特に形が複雑で、
毎年交換が必要な漆鉤を作れる。
鍛冶職人は青森の田子町にしかないんだ。



昔は実を
ロウリクに
したり、
袋につめて
廊下を
磨いたり
してたよ

漆掻きは6~11月に行われる。
一人の職人が一年間に掻くウルシは300~400本。
これを4グループに分けて、
一日1グループずつ作業を進める。

これを一人山と
いいます。

漆掻き職人(掻き子)

高齢化が進むが、
国産漆の復興に
とまない若い女性も!

① 下準備

下草を刈って風通しと
日当たりを良くする。

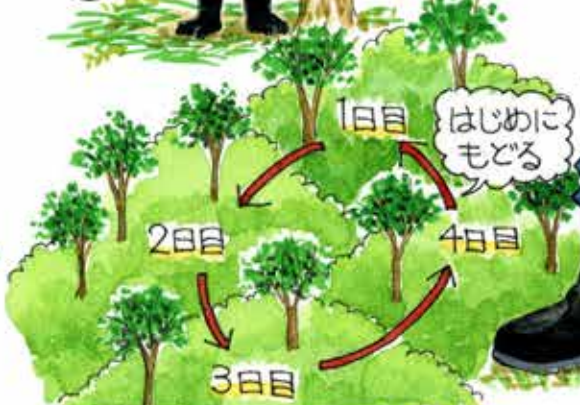
これから傷つける木に
激励の念を送る
たのんばよ

② 目立て(辺付け) (6月中旬)

傷をつけていく箇所にしるしをつける



これで採取できる漆の量が決まる重要な仕事。



③ 辺掻き (6月下旬~9月下旬)

目立てでつけた傷の上に、前より少し長い傷を4日サイクルでつけていく。

前回つけた傷を治すため集まった樹液(漆)がしみ出してくるのを集める。
「**辺漆**」



- 20回以上繰り返す
- ← 21日目
- ← 17日目
- ← 13日目
- ← 9日目
- ← 5日目
- ← 1日目 (目立て)

④ 裏目掻き (9月下旬~10月下旬)

辺掻きよりも長い、水平の掻傷をつけて漆をとる。
「**裏目漆**」



⑤ 止掻 (10月下旬~11月中旬)

幹を一周する傷をつけてとどめをさす
「**止漆**」



5ヶ月かけて一本の木からとれる漆は、ただた200gなんだ

ものすごく貴重なんだね

こうして漆を出した木は、冬の前に伐採される。



漆の精製

大切に集められた漆は、使用目的に合わせて加工されるよ。

生漆

採集されたばかりの漆(荒味漆)からゴミを除いたもの

生漆のままでも

下地用として使えるけど、攪拌して全体をなめらかにするんだ。

「ナヤン」という作業だよ。

さらに熱を加えて水分をとばす。「ウロメ」を行う。

色が変わって、光沢が出てきたよ。



精製時間を「見極める職人」

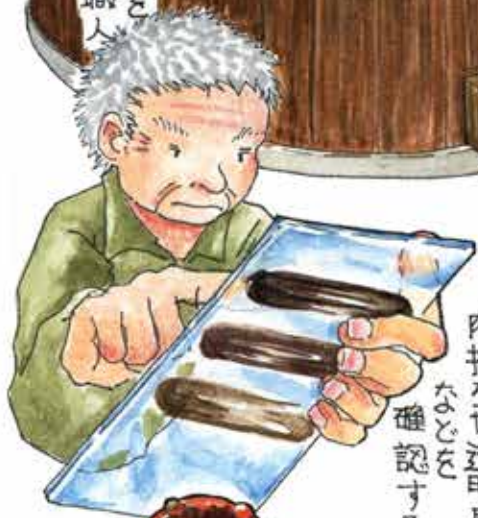
精製透漆

黒漆は、ウロメの途中で鉄粉を入れて作るんだ

透漆に顔料を入れ、練り込んで様々な色漆ができる

きれー

色漆



ガラス板に付けて肉持ちや透明感を確認する。



縄文時代の土器



だから何千年前の器が残っているんだね！

すごい！！

耐熱・耐温・抗+菌作用も強く、室内ではパワフルな保護材なんだ。



金やガラスを溶かす、王水やフッ化水素もへっちゃら！

さらに漆は一度乾くと酸やアルカリにとても強い。



表面張力が大きいから、天然塗料の中では最も平滑に広げられるんだよ。

こつとして精製された漆は、光の屈折率が高いので、深みのある光沢をもつ。

国宝
中尊寺金色堂



全体に漆が
塗られて
いるんだ

国宝 鹿苑寺(金閣)

見た目の美しさはもちろん、木の弱点をカバーできる漆は、神社や仏閣といいた建物も守り、いろどってきたよ。

漆の文化

日本人はこうした漆の特性を生かして豊かな文化を育んできた。



国宝
阿修羅像

国宝
八橋時絵硯箱

上塗り直後は鏡のように模様を写す。

国宝 日光東照宮の修復

1636年に造営されて以来、数十年に一度の漆塗を繰り返すことで土台の木を守ってきた。

何よりすごいのは、漆は剥がして修理・復元ができるということだ。



彩色部分の下地にも漆が

何重もの塗層を見ると先人達の技と思想が伝わります。



江戸・昭和の修理で重ねられた漆膜の上に、新たに漆を重ねていく。



こんな裏側まで!!

神様と自分と次世代の職人が見ているからね。

次の修復まで保たせます。

傷みがはげしい部分は、漆を剥がして塗膜を進める。

欠けた部分も漆で接着!

漆を身近に

安価な外国産の漆によって衰退してきた国産漆。しかし、平成30年から、国宝や文化財の修復には、原則100%、国産漆を使用することが決定した。



もとウルシを植えないと

極き子の数も増やさなきゃ



弟子入ります！



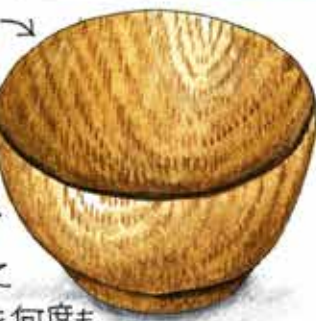
漆産業は、守るべき伝統産業ではなく、攻めるべき産業に大転換しつつある。

数十年先の修復に向けて、若手の塗師を育てなければ！

木地師が加工した木の器（トチノキヤキ等）に…



塗師が漆を塗って、研いでを何度も繰り返す。



漆器は木や紙に漆を塗り重ねて作る。

漆だけで厚みを作っていく。数ヶ月作業。



あ、お椀！

そして漆は、国宝だけのものじゃない。



自分の器を育てよう！

絵師により、装飾されるものも…



「うやうや」命名！

漆器は使い続けると、キズが整えられ、色ツヤが増してくるよ。



漆器は五感で感じる器。手触り、口当たりがふっくらやさしく、熱々の湯を入れても、手に伝わるのはやわらかなぬくもり。

